日本に来てくれるか

口差点（こうさてん）

昨年12月、毎年恒例のクリスマスカードがアメリカから届いた。封を開けると、珍しく添え書きの紙が入っており「来年は東京オリンピック・パラリンピックがあるが、それが終わった9月半ばには念願の日本への旅が実現しそうだから、そのときは東京で会おう。約束だよ」と書かれていた。

送り主は、40年ほど前に私が約1カ月ホームステイしたときのホストファーザーである。カードの交換は毎年続けていて、私から「ぜひ、いつか日本へ来てください」と添えると「来年は行こうか」と返信がありながら、実現しないまま時がたってしまった。

90歳を超えた彼に会えるのは、たぶん今回が最後になるだろうと思い「万障繰り合わせの上、東京へ行って会うことを約束します」と返事を出した。折り返し「君に会えた後はクルーズ船に乗って日本のあちこちを観光したい。初めての日本だから」と言ってきた。

しかし、年明けから新型コロナウイルスが各国に広がり、横浜港に停泊したダイヤモンド・プリンセス号の乗客から感染者が出て、日本は一気に「コロナパニック」になった。今もって、その終息すら分からない。

この状況下で、果たして彼は日本に来てくれるだろうか。きっと無理だろうなあと思いつつ、彼からの手紙が届くのを待ち、自粛生活を続けている。まるで恋人をじっと待つ心境のようである。それにしても、一日も早く「コロナ禍」が終息してほしいと願っている。

（安曇野市穂高、荻原義重、76歳）